

# No. 建 A07 テーマパークにおけるバリアフリーに関する研究

～野外民族博物館リトルワールドと博物館明治村を対象として～

村上研究室（建築・住居分野）A18AB108 長谷川未紀

## I. 研究の概要

### -1 背景

国土交通省では2020年11月に「バリアフリー法及び関連施策のあり方に関する検討会」においてバリアフリー整備目標の見直しに向けてとりまとめが行われた。バリアフリー整備目標の見直しに向けたとりまとめの中には「バリアフリー化の一層の推進」がある。そして、バリアフリーだけではなく、公共施設等の適正管理の枠組みの中で、ユニバーサルデザイン化を計画的に推進していくため、公共施設等適正管理推進事業債の対策事業に新たに「ユニバーサルデザイン化事業」も追加されている。

### -2 目的

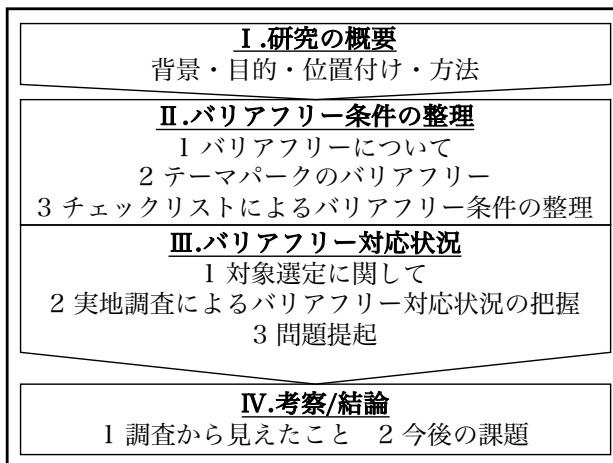
日本では、バリアフリー化における取り組みが進められている。本研究では、国内テーマパークにおけるバリアフリー対応状況、今後の課題を明らかにすることを目的としている。国内テーマパークの状況把握、比較検討のために、国内テーマパークのバリアフリー条件の整理、評価を行う。

### -3 位置付け

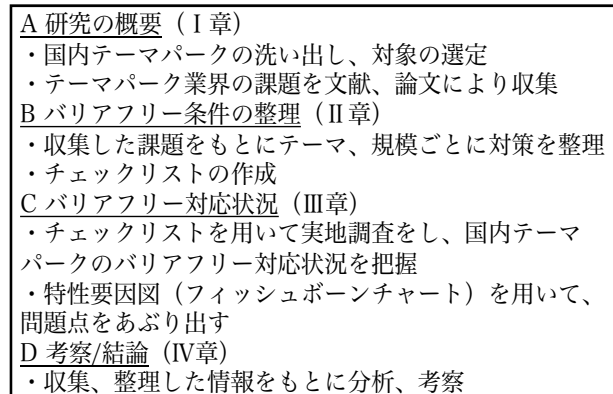
既往論文において、歴史テーマパークでのユニバーサルデザイン観光情報システム適用の評価に関して明らかになっている。<sup>1)</sup> また、野外博物館におけるユニバーサルデザインの対応状況および、観光行動への対応状況の2視点により課題を分析し、ユニバーサルデザインに対応したIT支援の在り方が明らかになっている。<sup>2)</sup> しかし、国内テーマパークにおけるバリアフリーの対応状況、評価は明らかではない。よって本研究では、テーマパークのバリアフリー対応状況、今後の課題を明らかにする。

### -4 方法

以上の目的を達成するために本研究は、以下の方法を取った。文献、既往論文によりテーマパーク業界の課題、バリアフリーの情報を収集し、基礎知識を把握した。(図表2-A)そして、国土交通省「建築物移動等円滑化基準チェックリスト」<sup>3)</sup>を参考にバリアフリー対応状況チェックリストを作成した。(図表2-B)その後、国内テーマパークから選定した、野外民族博物館リトルワールド、博物館明治村において、実地調査を行った。2ヶ所の調査結果を特性要因図により分析し、とりまとめた。(図表2-C)その後、比較検討、課題の抽出を行った。(図表2-D)



図表1 研究フロー



図表2 研究方法

施設	チェック項目
廊下	表面は粗面、または滑りにくい仕上げ 点状ブロック等
階段	手すり/つまずきの原因のない構造/回り階段ではないか 表面の仕上げ/段の識別しやすさ 点状ブロック等
傾斜路	手すり/表面の仕上げ 点状ブロック等 識別しやすさ
便所	水洗器具(オストメイト対応)/床置き式の小便器、壁掛け式小便器 車いす使用者用便房
通路	表面の仕上げ/手すり(段部分、傾斜路) つまずきの原因のない構造(段部分) 識別しやすさ(段部分、傾斜路)
駐車場	車いす使用者用駐車施設/幅が350cm以上/経路が最短距離
標識	JISに適合
設備	施設を表示した案内板等/案内所の設置 視覚障害者に示す設備
経路	音声誘導装置/車路に接する部分、段・傾斜部分の点字ブロック等

図表3 バリアフリー対応状況チェックリスト(チェック項目抜粋)

## 用語の定義

本研究では、テーマパーク<sup>※1)</sup>、バリアフリー<sup>※2)</sup>、ノーマライゼーション<sup>※3)</sup>をそれぞれ定義する。

## II. バリアフリー条件の整理

実地調査で用いるバリアフリー対応状況チェックリストは、国土交通省「建築物移動等円滑化基準チェックリスト」<sup>3)</sup>を参考に、取り上げる施設等、チェック項目をとりまとめた上で作成した。(図表 3 参照) 作成したバリアフリーチェックリストの有効性、確実性を検討するため、相山女学園大学星が丘キャンパス生活科学部棟を対象にプレ調査を行った。プレ調査を経て浮かび上がった改善点を踏まえて修正したものをバリアフリー対応状況チェックリストとした。

## III. バリアフリー対応状況

調査対象に関して、国内テーマパークを設立年、テーマ、所在地で分類分けした上で、比較検討や傾向把握のため野外民族博物館リトルワールドと博物館明治村の2ヶ所を選定した。また、比較分析を行うため、運動施設から岡崎市龍北総合運動場、公園から小幡緑地西園を比較対象として選定した。実地調査でのチェックリスト達成率は以下の結果となった。野外民族博物館リトルワールド 63.3%、博物館明治村 53.5%、岡崎市龍北総合運動場 86.2%、小幡緑地西園 93.3%である。(図表 4) 特性要因図からは、テーマパーク 2ヶ所の特性である「バリア (障壁)」となる要因が、「人」「設備」「環境」「テーマ」でそれぞれ明らかになった。(図表 5、6)

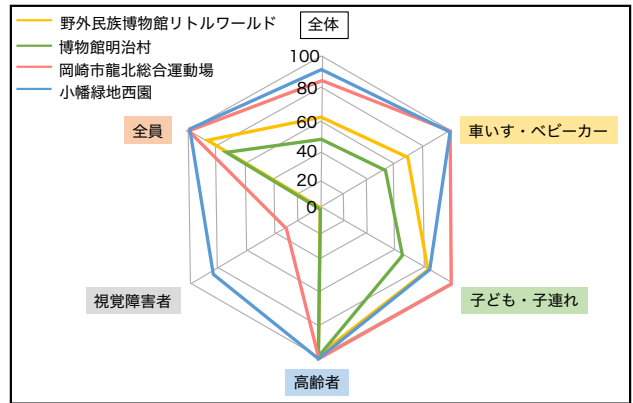
## IV. 考察/結論

### -1 調査から見たこと

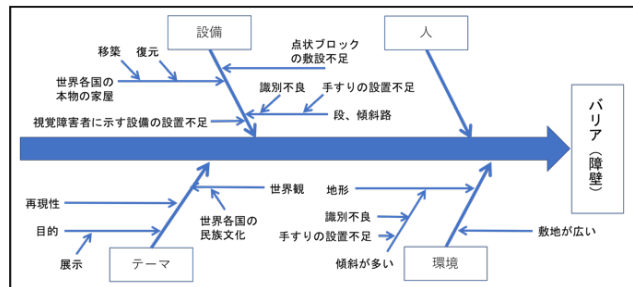
実地調査から、点状ブロックの敷設不足や視覚に頼らない案内設備の不足など、視覚障害者に対する設備が不十分であることがわかった。また達成度合いの差が最も大きくなったのが、主に車いす・ベビーカーの利用者に対しての設備であることがわかった。特にテーマパークでは、運動施設や公園に比べて、ターゲット層の幅が狭い。そのためバリアフリーの普及率が低く、項目ごとの達成度合いにもばらつきがあることが考えられる。

### -2 今後の課題

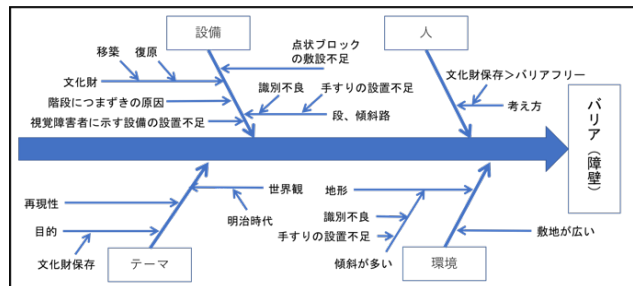
テーマパークにおいてのバリアフリー項目の達成率の低さが課題として挙げられる。バリアフリー化は、全ての人々が不自由なく移動するために、どの公共施設においても重要なことである。また、バリアフリー化を進めることにより、「どこでも、だれでも、自由に、使いやすく」をいうユニバーサルデザインの考え方に基づいた、すべての人に利用しやすい施設等の整備も実現できるテーマパークに訪れる全ての人々が不自由なく移動し、楽しむためにはバリアフリーとの両立を考えるべきである。



図表 4 比較分析結果 [数値 : %]



図表 5 特性要因図 (野外民族博物館リトルワールド)



図表 6 特性要因図 (博物館明治村)

### 【脚注】

※1) 「特定の主題 (テーマ) に基づいて施設全体の構成・演出をする大型レジャー施設 (テーマ遊園地)」<sup>1)</sup>

※2) 国土交通省より「高齢者・障害者が生活していく上で障壁 (バリア) となるものを除去 (フリー) すること。物理的、社会的、制度的、心理的な障壁、情報面での障壁など全ての障壁を除去する考え方」

※3) 厚生労働省より「ノーマライゼーションとは人権そのものであり、社会的支援を必要としている人々 (例えば、しょうがいのある人たち) を「いわゆるノーマルな人にする」ことを目的としているのではなく、その障害を共に受容することであり、彼らにノーマルな生活条件を提供すること」というものであると定義している。」

### 【参考文献】

- 1) 市川尚、宮澤芳光、川村和也、佐々木研弥、福岡寛之、大信田康統、阿部昭博「Bluetooth 携帯電話による UD 観光情報システムの歴史テーマパークへの適用」
- 2) 工藤彰、阿部昭博、狩野徹「野外博物館における IT を用いたユニバーサルデザイン対応の在り方」
- 3) <https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/build/barrier-free.files/07-00enkatuka.pdf> (2022/1/12 12:00 最終閲覧)